

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	令和元年度第3回東村山市立図書館協議会				
開催日時	令和2年2月27日(木)午後2時～午後4時				
開催場所	秋津公民館第3集会室				
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 伊藤浩介委員・大堀浩委員・竹澤廣介委員・真野朋子・石河聡子委員・徳永靖子委員・堀渡委員・黒尾和久委員・宮川健郎委員 (市事務局) 新倉図書館長・野口館長補佐・中村奉仕係長・榎本調査資料係長・並木富士見地区館長・宮後萩山地区館長・新井秋津地区館長・安保廻田地区館長 ●欠席者：黒尾和久委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	無し
会議次第	1. 報告 (1) 令和元年度事業について (2) 12月議会 (3) その他 2. 協議 図書館の役割、あり方について 3. 秋津図書館について				
配布資料	配布資料 1. 令和元年度第3回図書館協議会次第 2. 令和元年度第3回東村山市立図書館協議会 報告資料 3. フェイスブック令和元年度第2回図書館協議会報告資料 4. 冬休みお楽しみパック事業について				
問い合わせ先	事務局 東村山市立中央図書館 担当者名 野口 電話番号 042-394-2900 FAX番号 042-394-4107				

会 議 経 過

新型コロナウイルス対策について

(事務局) 2月26日に市の対策会議があり通知があった。市主催の行事は中止し、関連団体のものも自粛を要請する。図書館ではおはなし会、各所へのボランティア派遣、視覚障害者向けの対面朗読を中止した。3月20日に英語多読の講演会を予定していたがこれも中止した。関連団体の地域文庫くめがわ電車図書館も当面の休館を決めた。

●地域文庫はくめがわ電車図書館だけなのか。

(事務局) その通りである。

●図書館の休館は予定しているのか。

(事務局) 現時点では予定していない。

(注記) 翌日2月28日に、3月2日から25日までの市内小中学校の休校と公共施設一斉休館が決まった。

●視覚障害者からは時事問題を知るために新聞を読んでもほしいとの要望が出ることもある。対面朗読を中止してよいのか。

●対面朗読は不特定多数と接触するわけではないと思う。

(事務局) 新聞音訳の要望は図書館には届いていない。利用者の理解も得たうえでの中止判断である。ボランティア側の感染リスクに対する不安もある。市の方針決定前におはなし会への派遣は中止した。主催者としてボランティアの安全確保の視点から判断したものである。

●学校では学校公開や保護者会を中止した。土曜日の施設開放も3月いっぱい中止した。卒業式・入学式は、都立学校が縮小を決めている。市内では3月上旬をめどに判断するが、来賓を招待しないなどの規模縮小をされると思われるが現時点では未定である。

●図書館などの人を集める施設自体が感染拡大の危険があるとなると通常の開館は難しくなるだろう。

(事務局) 利用者側が警戒して人出が減っている実感はある。

●開閉館について判断は慎重に行ってもらいたい。

1. 報告

* 中央図書館改修工事休館について

(事務局) 3月31日に再開することを決定した。中央公民館の臨時窓口は3月29日で閉鎖する。ホームページなどでは広報を始めている。今後関係各所へお知らせしていく。休館中の利用状況統計を見ると地区館の利用が2割～3割増加している。中央図書館の資料が貸出できなかったため他市からの借用が増えた。直接本を選べない臨時窓口もコンスタントに利用されていた。東村山駅西口地域サービス窓口での返却は駅改札の地下化の影響か利用

が減ってきている。臨時窓口は終了するが、続けてほしいとの意見が出ているため今後の動向を注視していく。サービススポットの増加に対する代替案を用紙しておく必要があると思っている。サービス内容が違うため直接比較はできないが西口窓口より臨時窓口のほうが利用が多かった。

●中央公民館臨時窓口は続けられないのか。

(事務局)中央図書館が閉館により人的体制が整えられたためできた。臨時窓口では図書館システム用のパソコンを設置できなかったがサービスの恒常化には必須である。このほか人員配置、物流、場所の確保など恒常化するには検討が必要な事項が多い。

●駅に近い窓口の要望が高いのはわかるが、市の施設に相乗りすることを前提にすると必ずしも合理的な配置にならない。中央図書館と中央公民館の距離で2か所窓口が必要なのか。今回は立地がよく市民の動線に便利だったが、場所の拡大は慎重に行うべきである。

(事務局)職員側もよく利用されている実感は持っていてその必要性は認識している。職員間でサービスを行うための具体的な条件を検討する共通認識を持たせた。

*富士見図書館開館40周年

(事務局)富士見図書館と関係が深い「富士見図書館友の会」と「東村山音訳の会」の協力を得て記念行事を行った。当日の様子は市のフェイスブックにも掲載した。当日は59名の参加があった。協力団体の方に感謝したい。

*馬頭琴コンサートと読み聞かせ

(事務局)教科書にも載っている、モンゴルが舞台の絵本『スーホの白い馬』を題材に行事を行った。絵本の読み聞かせと馬頭琴の演奏を行った。絵本は拡大映写した。馬頭琴の演奏者には楽器の演奏だけではなくモンゴルや楽器についての講演をしていただいた。申し込みが多く40人以上断らざるをえなかった。参加者は100人を超えた。音楽とのコラボレーションは初めてだったか好評で大人の参加が多かった。

●『スーホの白い馬』は紙芝居サークルでも小学校で演じている。教科書に載っているため子どもたちは楽しんでくれる。

●大型絵本でも100人以上に見せるのは難しい。拡大映写する発想とテクニックが良い。

(事務局)今回のためにボランティアが拡大映写の著作権許諾手続きを取った上での開催ではあるが、新しいおはなし会の可能性を感じた。

●元の本は大勢で見るとのものではない。教科書には本文しか載っていないので子供も新鮮だったのではないかと。余談だが、研究によりこの物語は古くから伝わる伝承ではなく、創作された新話であることが分かった。

*冬休みお楽しみパック

(事務局)タイトルが分からないようにテーマ別にパックした本の貸し出しを地区館4館で行った。臨時窓口では場所が確保できないため行わなかった。3回目となる。児童書は対象年齢

を表示した。テーマのキーワードのつけ方に担当者の工夫が見られた。パック作成は担当にかかわらず皆で行った。本を選ぶことで職員の研修になると同時に借りられることによるモチベーションアップにつながっている。

●他市でも行っているのか。

(事務局)同様の事業は近隣でも行っている。

●最近の新聞に多摩地区の自治体の例が記事になっていた。現在では先駆的な事業ではないが宣伝の仕方がうまいのだろうか。

●広報はどうしたのか。

(事務局)館内掲示や市報の他に市のホームページトップにバナーを載せてもらった。

●大人向けの企画が少ないので貴重である。

●新聞に情報を流すと取材してもらえるかもしれない。

●ケーブルテレビのJCOMが地域の情報を放送している。

●開催回数を重ねているため、記事は開催の告知よりも利用者の声など反響などを見てもらえるとよい。プレスリリースを続けてマスコミになじみの記者ができると取り上げてもらえるチャンスが増える。

(事務局)参考にしたい。

(2)12月議会

(事務局)学校図書館についての質問が多かった。所管は学務課だが図書館で資料を提供した。子どもの読書環境について重視している旨の市長答弁があった。

●国の交付税で学校図書館予算として配分されるものは使途限定ではないのか。

●指定配分ではないので他に使うことができる。

●市から学校へ配分される予算は図書費は資料費として配分されている。他の備品などの購入費とは別である。

●デジタル資料はあるのか。

●当市にはない。

●読み物のデジタル資料は抵抗があるかもしれないが、事辞典類はデジタルのほうが使いやすいのではないか。

(事務局)索引の使い方など基本的なことを学んでからの方が効果的と考える。

- 小学3年生が辞書の引き方を習うが家庭ではネット検索のほうが主流だろう。
- デジタル資料は全文検索ができるので辞書の引き方を学べない。いきなりネット検索では学ぶ場として難しいのではないか。
- 図書標準について、達成基準は冊数のみで内容は問われないのか。
(事務局) その通りである。
- 内容の古いものを適切に廃棄していくことも大切である。
- 学校司書が廃棄対象図書を選び決裁後に廃棄している。
- 子ども目線で選書や運営をしてほしい。学校図書館を利用して成長した子どもが自分の学校図書館の改善点を意見できるくらいになるとよい。購入時に子供からのリクエストは受けているのか。
- 図書委員会で受けて基準に基づいて購入することがある。
- 施設や図書費だけでなく司書教諭や学校司書の配置に対する支援が必要である。人の配置が充実して子どもたちが利用者として育って行けるとよい。
- 市内の複数の学校に赴任してきたが、週2日勤務の学校司書が学校図書館の運営をしっかりと担っているのがよくわかった。子ども教師双方にしっかりと情報提供をしてくれている。
- 私は高校で司書をしているが、先生向けの図書館だよりを作ったことがある。
- 子どもの読書推進のためには大人へのアプローチが大切である。
- 先生や保護者にも学校図書館の利用カードを作り利用してもらっているところがある。
- 図書担当ボランティアが活発な学校がある。
- 小学校は総合学習の取り組みにより蔵書に学校の特色が出る。
- 所蔵情報をデータ化して学校をオンラインで結べば特色あるコレクションの相互貸借ができるのではないか。物流の問題が発生するが。当市ではまだ学校には図書館システムが入っていないのでそれが課題だと思う。蔵書の見える化が必要である。
- 子ども自身が取り寄せ依頼をできると面白い変化があるのでは。
- 自分の学校を相対化でき、よりよい運営につながるのではないか。
- 学校横断の全校図書委員会があると子供が成長するのではないか。
- 生徒会サミットはある。図書館システムがオンライン化すればいろいろな形で繋がれるだろう。
- 面白い試みになると思う。

●当市の学校図書館は学校司書の配置により良い変化があった。さらにその先に進みたい。

(3)その他

*子育てにやさしい大賞受賞

(事務局) 毎年ころころの森主催で利用者に投票を呼び掛けている。今年から人部門が新設され図書館くまボラさんが受賞した。JCOMで放送された。

*PTA2者懇談会

(事務局)これは毎年行われる、市がPTAから要望や意見を聴く懇談の場である。図書館へもいくつかあった。予約が多い本への対応を問われたが、子ども用は人気のあるタイトルは複数購入する努力をしていると回答した。ハッピーマンデーや行事の振替で月曜日の休校が多いことによる月曜開館への要望には、居場所確保の重要性は理解するが、他施設との併設館は管理上の問題があり難しいと回答した。

●図書館は単純な居場所として機能すればよいわけではない。

●ハッピーマンデーが始まった時に休館日をずらした自治体が多い。

●館ごとに曜日をずらして休館するのは利用者にわかりにくい。

●居場所問題の対応として、児童館は中学生には行きにくいのだろうか。

●自宅では誘惑が多いので外で勉強したがる子どもが多い。

●先のことになるだろうが中央図書館の建て替え時には勉強場所の提供を意識してほしい。

2. 協議 図書館の役割、あり方について

●前期から引き続き、任期の2年間で図書館のあり方について協議していきたい。足りないことへの対応だけでなく大きな夢も話していきたい。

(事務局)前期の議論では、図書館以外へのサービスポイントの拡大、除籍方法、中学生の勉強の場の提供、障害者サービスについて利用者から意見聴取、学校図書館についてなどが話された。

●サービススポットの件だが、東村山駅の地域サービス窓口は自転車が停めにくく土日が閉まっているため使いにくい。他の場所でも市の施設でスペースがあれば開設してほしい。

●中央図書館は今回の工事で長寿命化したが、いずれは建て替えが必要になる。将来の場所、機能、職員の配置も見据えて議論したい。平成31年2月の回に資産マネジメント課による施設再生出張講座で説明があったがその後具体的には進んでいないように思う。今ある公共施設の場所借りでは本来の配置のあり方とずれてしまう。

●西武鉄道の高架下の利用について情報が流れてこない。

(事務局) 現段階では市の持ち分の割合程度しかはっきりしたことはわからない。

●現在小学校に勤務しているが、遠い地区館だと図書館から行事のお知らせをもらっても行くことができない。地区館で好評だった行事を市の中心にある中央図書館でやることはできないか。ノウハウの継承にも役立つと思う。

(事務局) 製本講習会は持ち回りでやっている。

●廻田図書館で好評だったナイトツアーを他館でもやってほしい。

●小学3年生の図書館見学では、子どもたちが閉架書庫見学によく反応している。手に取りたい本を直接見せる機会が増えるとよい。

3. 秋津図書館について

(事務局) 独自行事の障害のあるお子さんのための布の絵本プレイルームは、もともとはころころの森で行っていたものを秋津でも行うようにした。絵本タイプその他、大がかりな展示タイプのものの人気が高い。秋津公民館の和室を会場にしているが、参加人数は少ないが、他の子どもがいると障害のある子を連れて行きにくいのでこのような場があつてよいとの感想をもらっている。他市の市民からも問い合わせがあつた。ほっとする場になっているようだ。

●参加人数よりも続けることが大切な事業である。当事者に届くように広報に工夫をしている。人数が少なくゆったりと過ごせるのがかえってよい。

●ネットで「布の絵本」で検索をかけると東村山市が上位に表示される。

●破損時にはどうしているのか。

(事務局) 布の絵本サポーターの方に修理をお願いしている。

●図書館の財産となるので巡回開催できるとよい。

●回数増の要望はあるのか。

(事務局) ある。現在はころころの森での開催と合わせて年2回行っている。

●他に障害者への読書支援はどんなものがあるか。

(事務局) 視覚障害者向けの録音図書の貸出しや対面朗読を行っている。また、障害者向け限定ではないが大活字本の購入をしている。

* 終了後に秋津図書館の見学を行った。

次回は令和2年6月を予定。